

2013年3月期第3半期決算説明会 主な質疑応答(要旨)

◆ 実績について

Q: 第3四半期(単独)において国内線、国際線とも対前年比で収入が増えていませんが、どのように考えているか教えてください。

A: 国際旅客は尖閣・竹島影響があり収入がやや減りました。国内旅客は前年対比で供給(ASK)を落としており、ほぼ同程度の収入を保っています。

Q: 国際線の旅客収入がもう少し伸びても良いと考えますが、国際線の客体構成について教えてください。

A: 4月~12月は、日本発、海外発需要の両方で旅客数は前年を上回りました。特に海外発需要が大きく伸びました。旅客収入の伸びが低い理由として、需要構成として日本発観光・海外発のお客さまの数が大きく伸びたことに伴う客体構成の変化があげられます。

Q: 国内線の単価と動向について教えてください。

A: 個人は、先得、スーパー先得などの需要喚起型旅客のシェアが増えたため、単価が前年よりさがっており、第4四半期も同様の傾向が続くと考えております。団体については1月~3月の予約が弱含みに推移しており、この点については今回の業績予想に織り込み済みです。

Q: 第3四半期において、投資キャッシュフローが前回予想差から200億に増えた理由について教えてください。

A: オペレーティングリース機材の買い取り、航空機支払等により、計200億円増となっております。

Q: 第3四半期決算において発表された費用削減▲80億円について教えてください。

A: 今回発表した通期連結費用▲80億円の内訳は、燃油市況の想定差による40億円、また共通経費の削減等で40億円となっております。

◆ 業績見通しについて

Q: 国際線の予約状況について円安等の影響による落ち込みはありますか？

A: 1月~3月では欧米・東南アジア線の好調が継続し、前年同期比を超えて推移しています。

Q: 現在、円安傾向にありますが、為替が与える影響(減益インパクト)について教えてください。

A: 当社の為替感応度はヘッジなしで1円/1ドル約25億円ですが、一定程度についてはヘッジを行っており、第4四半期への大きな影響はありません。

◆ 株主還元について

Q: 目標である自己資本比率50%を達成した場合、株主還元策を変更するのでしょうか？

A: 多くの株主の皆さま方から積極的な株主還元をしてほしいとのご要望を受け、来年度中の自己資本比率50%達成が見えてきたことから今回前倒しで配当性向を上げさせていただいたため、自己資本比率50%を達成しても再

度見直しは行わない予定です。

Q: 配当性向 20%の考え方について教えてください。

A: 配当性向 20%程度を一定として、業績によって配当金を変動させていくという考え方です。

Q: 営業キャッシュフロー1,000 億円の水準において、配当性向 20%程度としたとしても余剰資金があると思いますが、今後の株主還元の考え方について教えてください。

A: ある程度のキャッシュが溜まった段階で検討しますが、イベントリスク、円安対策、投資の需要等の要素を考慮したうえで、株主還元について慎重に検討していきたいと考えます。

◆ その他

Q: ボーイング 787 型機の運航見合わせを受けて、今後の運航見通しについて教えてください。

A: 787 型機の運航見合わせによりお客さま、関係の皆さまにご迷惑・ご心配をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。787 型機のデリバリー状況は現在未定ですが、代替機として 777、767、737 型機で可能な限り運航維持に努めたいと考えております。

以 上